



—ふくしまの未来を考える— 第1回福島県環境創造シンポジウムを開催!

震災から7年が経過するにあたり、平成30年3月4日(日)に「一緒に考えよう ふくしまの未来」をテーマに、交流棟「コミュタン福島」でシンポジウムを開催しました。シンポジウムでは、大きく3つの発表(1 パネルディスカッション 2 パネル展示 3 サイエンストーク(専門分科会))を行いました。

パネルディスカッションでは、作家の玄侑宗久氏ほか4名の方々をパネリストに迎え、「ふくしまの環境回復・環境創造を考えるにあたり今後どのような取組が必要か」をテーマに、「人が暮らしを続けていける(環境、雇用、経営)システムづくり」、「ふくしまの良さを伝える人の魅力も大切」など、それぞれの立場から意見を交わしました。

パネル展示は、福島県内で環境回復・創造のために活動する研究機関や関係団体等が「環境放射能について」「農林水産について」「未来へのとりくみ」等のテーマ別にブース出展し、来場者対話しながら日頃の活動や研究の紹介を行いました。県や大学の研究機関、そしてNPOや高校など様々な方々が、ふくしまの環境回復・創造のために活動しており、ふくしまの未来は自分達が創っていくという熱い想いを伝えました。

サイエンストーク(専門分科会)では、「生活を見守るモニタリング」と「地域資源による産業再生」をテーマに、放射性物質による環境への影響や、産業の復興・創生についての研究成果を発表しました。



パネルディスカッション



パネル展示



パネル展示



サイエンストーク(専門分科会)

コミュタンフェスティバル in Winter

交流棟「コミュタン福島」で、平成30年2月17日(土)にコミュタンフェスティバル in Winterを開催しました。今回は、私たちの身の回りでは起こりうる自然災害や火山について学ぶ講座、液体窒素を使ったサイエンスショー、放射線の測定体験等を行うセミナーなど盛り沢山の内容でした。



Dr.ナダレンジャーの自然災害実験教室ミニチュアを使った災害実験



サイエンスショーは子供達に大人気!



環境回復セミナー放射線の測定体験はドキドキ!

磐梯山噴火記念館出張講座手づくり火山実験の材料に興味津々



植物からDNAを取り出す実験



コミュタン福島では、放射線や環境について学ぶ常設展示のほかに、土日祝日にはサイエンス体験や工作などを行っています

事業紹介

化学物質によるリスクの削減に向けたリスクコミュニケーションの普及・促進を図るため、講演会等を実施しました。

高校生のための化学物質リスクコミュニケーション講演会・交流会

工業高校化学科の高校生を対象に、化学物質のリスクや、事業者と地域住民との相互理解、リスクコミュニケーションについて学んでいただくために開催しました。今年度は、平成30年1月29日に、福島県立小高産業技術高等学校産業革新科化学コースの17名が受講しました。

化学物質アドバイザー河合直樹氏による、化学物質のリスクの考え方等の講義やリスクを減らす対策を考えるグループワークを行い、参加した生徒からは「化学物質について伝えられるようになりたい」などの感想がありました。



小高産業技術高等学校でのリスクコミュニケーション講演会・交流会

化学物質リスクコミュニケーション推進セミナー

平成30年2月23日に、事業者を対象としたセミナーを開催し、69名が参加しました。独立行政法人製品評価技術基盤機構化学物質管理センター竹田宜人氏による化学物質リスクコミュニケーションを行うにあたっての実例を交えた具体的な方法の講演と、二本松市の株式会社CKF古川利夫氏による企業での取組事例発表を行いました。

質疑応答も行い、参加者の方からは、講演や事例発表が分かり易く、今後の取組の参考になったという感想を多くいただきました。



事業者向け化学物質リスクコミュニケーション推進セミナーの様子

IAEA協カプロジェクト サマリーワークショップを行いました!

福島県とIAEA(国際原子力機関)とは、平成24年12月から、河川・湖沼等の除染技術の検討や野生生物における放射性核種の動態調査などの協カプロジェクトを進めています。

平成30年2月6日~8日にかけて、同協カプロジェクトの関係者を対象に、これまでの5年間の協カで得られた成果を共有し、今後のプロジェクトの進め方や課題に関する議論を行うことを目的としたサマリーワークショップを開催しました。

今回のサマリーワークショップを踏まえて報告書を取りまとめ、ホームページ等で公表していきます。



サマリーワークショップの様子

研究紹介

環境創造センターでは、福島県の環境回復・創造に向けて、「放射線計測」、「除染・廃棄物」、「環境動態」、「環境創造」の4つの部門(グループ)に分かれて、日々研究を行っています。今回は環境創造グループの研究について紹介します。

猪苗代湖の水質汚濁原因を

探る!!

(猪苗代湖の水環境に関する研究 研究部 環境創造グループ)

猪苗代湖は、かつて、湖水のpHが5.0程度の酸性湖沼でした。しかし、1992年頃から湖水のpHが上昇し始め、2009年以降はpH6.8で安定し、ほぼ中性の湖となりました。さらに、それを追うような形で、化学的酸素要求量(COD)も年々上昇し、また、大腸菌群数が環境基準値(1,000MPN/100mL)を超過するなど、水質の悪化が目立つようになりました。

そこで、当グループでは、湖水が中性化したメカニズムや汚濁負荷原因等を調べて、なぜ水質汚濁が進んだのかを明らかにし、猪苗代湖の水質改善に向けた効率的な方法・施策等を検討していくための研究を行っています。

この研究は、野外の調査や観測を多く行うことが特徴です。定期的な採水は勿論のこと、猪苗代湖内では湖水温や溶存酸素濃度等の連続測定を行ったり、流入河川では、川に立ち入っての流量観測や水位の連続測定、台風が来た時には増水した川の水の採水もしています。

猪苗代湖の内部の状況について観察するため、猪苗代湖内にカメラを沈め、撮影したものをご紹介します。

湖心など水深が深い地点では、写真1のように湖水は青緑色で透明度が高く、湖底は写真2のようなふわっとした堆積物があり、表面を剥くと黒い堆積物があります。水深の浅い場所では、写真3のように湖底が砂地で透明度が高い地点がある一方、写真4のように水が濁りヒシなどの植物が多く繁茂している地点など同じ湖でも全く異なる姿をしています。

夏の暑い時期の調査や冬の寒さの厳しい調査など心が折れそうな時もありますが、猪苗代湖と磐梯山がきれいに見えるときの景色は格別です。猪苗代湖の水環境を保全するため、これからも調査を継続していき、水質の汚濁負荷原因を解明していきたいと思えます。



写真5 採水の様子

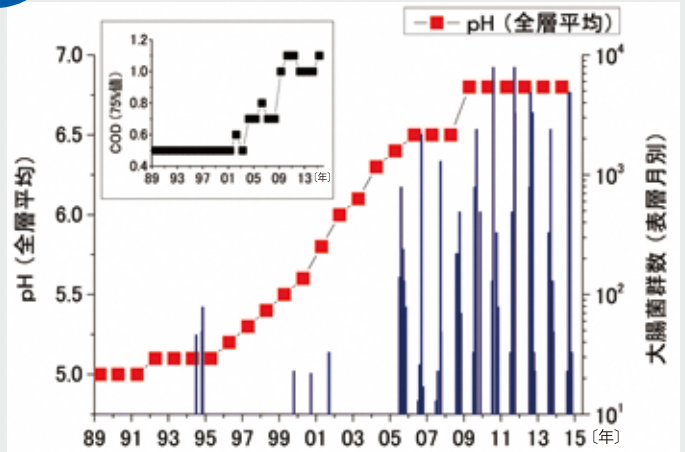


図1 猪苗代湖湖心における湖水のpHと大腸菌群数の経年変化
 ※COD: 化学的酸素要求量。水中の有機物濃度の指標。
 ※大腸菌群数: 大腸菌や大腸菌と性質の似ている細菌の数。



写真1 水中(湖南沖)

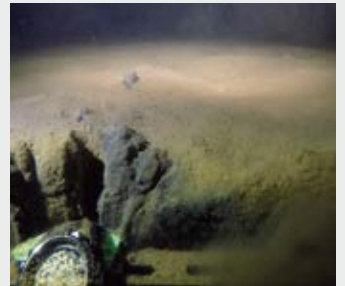


写真2 最深部の湖底



写真3 北岸部(蟹沢浜沖合)

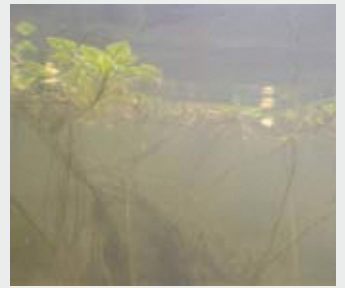


写真4 北岸部(白鳥浜沖合)

福島県環境創造センター

福島県の環境回復・創造に向けたモニタリング、調査・研究、情報収集・発信、教育・研修・交流の業務を行っています。環境創造センターホームページより、県内市町村の空間線量、大気環境等のモニタリング情報を御覧いただけます。



福島県環境創造センター交流棟「コミュタン福島」 入場無料

TEL.0247-61-5721 FAX.0247-61-5727

ホームページ <http://www.com-fukushima.jp/>

- 開館時間 9:00~17:00
- 休館日 毎週月曜(月曜が祝日の場合、翌平日)12月29日~1月3日
- 売店、キッズスペース、授乳室、和室(飲食可)もあります。



車をご利用の場合 磐越自動車道船引三春ICより約5分

電車をご利用の場合 JR磐越東線三春駅より車で約12分

三春町営バスをご利用の場合 三春駅~環境創造センター(コミュタン福島)へ

コミュタン福島をご利用の方はバス料金無料 年末年始(12月31日~1月3日)を除き毎日(1日4便)運行



田村西部工業団地内、ドームが目印です。